JICA Research Institute

Working Paper Summary

JICA-RI Working Paper No. 109 （2015 年 12 月刊行）

Measuring Quality of Policies and Their Implementation for Better Learning: Adapting World Bank's SABER Tools on School Autonomy and Accountability to Burkina Faso

Takako Yuki, Kengo Igei, and Angela Demas

Research Project: 学習成果と衡平性に資する教育システム分析ツール (SABER)の開発研究（参加型学校運営制度、分権化とアカウンタビリティを中心に）

■付加価値

教育分野における優先的な開発目標は、学校へのアクセス増加から学習成果の質向上へシフトしてきた。就学率は伸びても学びが十分ではないという問題の解決に向け、各国では政策の見直しが進みつつある。こうした中、国際的なグットプラクティスや先行研究に基づいた政策分析をサポートするため、教育制度の国際比較分析ツール（通称 SABER: サベール）とデータベースの開発を、世界銀行は他ドナーとも協力をしながら進めてきた。本研究は、SABER の中でも特に学校運営制度（通称 SBM）という JICA の協力実績も多い分野に関する政策を評価するツールの改善に向け、世銀チームと共同で実施したものである。これまでの SBM に関する途上国の先行研究はラテンアメリカが中心であったが、本研究では、西アフリカのブルキナファソに SABER の開発途中の評価ツールを適用していく過程で、評価指標をより包括的に汎用性を高めることに貢献した。また、その評価ツールを対象国関係者の協力を得ながら用いて、法令やガイドラインといった政策意図の評価と、その実施度の国内差の定量的な分析を合わせて行い、学習の質改善に向けた提言を導出する事例を提供した。

■リサーチ・デザイン

本論文では、ブルキナファソの学校運営制度に係る政策の質と実施度について検証している。学習成果の改善に向けた学校運営委員会の機能、及び分権化や学習評価政策とのシナジー効果に着目して分析している。学校運営制度に関する SABER の評価分析ツールを適用しながらも、国に応じて追加すべき評価指標等も検討し質問票の作成を行った。その上で、制度・政策の質については、まず法令やガイドライン等を収集して 4 段階評価を行い、その内容を政府高官等とのワークショップにて確認した。次に、政策の実践度について、村落部の学校、学校運営委員会、保護者会、地方自治体、教育事務所等に対して質問票に基づくインタビュー調査を行い、特に近年制度が進展した COGES と呼ばれるコミュニティ参加型学校運営員会に焦点を当て、データを分析した。

■主な結論（政策的含意を含む）

ブルキナファソでは、学校運営委員会の役割に係る政策の質は比較的向上していることが示された。分権化政策も地方自治体への権限移譲という点では概ね高く、また、学習評価政策も学習評価の頻度では高く評価された。他方で、これらの政策は、本来の意図通り十分に実施されているとは限らず、関係者間での実践度に差があることが学校や地方自体等のデータによって明らかにされた。まず、学校運営委員会(COGES)は、その機能度に差がある。この機能度を表す指標として、学校への COGES の貢献金額に着目すると、それは COGES の総会や COGES 同士の連合の有無などのガイドラインが意図する手順の実施度とも有意に関連している。民族構成等の他のコミュニティ要因を制御しても結果は同じである。COGES の機能度が高い学校では、教科書数や補習授業時間数といった学習環境、また卒業試験の合格率といった学習成果の質も比較的高い傾向がある。さらに学習評価結果をより活用していることもより良い学習成果と関係しており、地方分権化の実施度に係る関係者間の共通認識の高さも補習授業時間の長さと正の関係を示した。参加型学校運営委員会に係る政策の実施を、学習評価結果の活用や分権化と共に強化することは、より良い学習成果に向け重要であることが示唆された。